

## 行方市の動画コンテストで優秀賞 村上ゼミの光岡さんら

茨城県行方市が募集した「歴女が巡る風土記の世界動画コンテンツ」で、茨城大学人文学部人文コミュニケーション学科メディアコースの村上信夫ゼミに所属する光岡明穂さんら7人で制作した「風土記勅撰 1300年 行方国巫女ものがたり」が優秀賞を受賞した。

コンテストは、奈良時代の元明天皇が各地の産物や地誌などを記録に残すため、713年に風土記の執筆を常陸の国など全国各地に命じ、1300年が経過したのを記念して、行方市がブランドイメージのアップ戦略の一環として広く募集したもの。



優秀賞に輝いた作品は、約5分のビデオ。常陸国風土記の描く8世紀の時代から、ふとしたことでタイムスリップしてきた巫女と、風土記を研究する大学生が、万葉ゆかりの湧水で茨大近くの曝井（さらしい）での突然の出会いからスタート。巫女が奈良時代へ戻る方法を探すため、風土記に紹介されている行方市内の史跡などを2人が巡り、最終的には巫女が無事帰還を果たすメデタシメデタシのストーリー。

光岡さんは、「田中裕先生と院生らのご協力で風土記に登場する地域やエピソードが県内に数多く残っていることを知った。ラストシーンの夕陽は、雨に降られて何度も日程を変え、道に迷った挙句、行方市で、奇跡的に撮影できたチームワークの成果。苦労したので、優秀賞を受賞できて本当に嬉しい。作品の制作を通じて茨城県を知ることができ、とてもよかった」と語っている。（終）